埼玉・市民ジャーナリズム講座　2024 年　11月例会

首都圏記者が探る
ニュースの裏側

■講師：長竹 孝夫さん（ 元東京新聞編集委員・論説委員 ）

〈 首都圏の課題 〉 拙著「首都圏の『綻び』」（あけび書房）で、今年6月「地域・民衆ジャーナリズ賞2024」を受賞した。著書は日本公害の原点とされる足尾銅山鉱毒事件と福島原発事故。この二つの共通性（国策・人災・大被害・移住や避難・住民の苦悩・回復しない現地）を解説した。このほか、首都圏の課題である首都直下地震、富士山噴火、首都機能バックアップ論、老朽インフラ、 育児や介護等の問題点などもクローズアップ。今回はとくに印象に残った「取材現場」を取り上げる。講師は、ウェブメディア「JBpress」などに執筆しているほか、「レイバーネットTV」などにゲスト出演。 この取材や出演で感じたこと、思ったことにも触れたい。

長竹孝夫さんの著書

〈 どうなるメディア 〉 新聞業界は部数や広告減から経営難。一般紙、スポーツ紙の発行状況はどうなのか。今後、新聞業界はどうなっていくのか、懸念が残る。

ながたけ・たかお　1953年栃木県佐野市生まれ。中日新聞社（東京新聞）入社。浦和支局を振り出しに東京本社へ。社会部、東京都庁記者クラブなど担当。環境庁（省）記者クラブ時には「国連環境開発会議」取材。その後、社会部次長兼論説委員、校閲部長など経て、編集委員。退職後、日本記者クラブ会報委員を経て、現在ジャーナリスト兼非常勤職員。

■ 11月14日（木）19時～21時　■定員： 30人　■参加無料

■会場：さいたま市・浦和コミュニティセンター　第1・2集会室（浦和駅東口パルコ上9階 ）

■申し込み ＆ 問合せ：090-6190-4634（ キクチ ）　saitamashiminj@gmail.com

予約フォーム

埼玉・市民ジャーナリズム講座　埼玉県には古くから独自の歴史と文化があります。埼玉がよりいっそう活性化、発展するためには地域に根ざした多様で「市民に開かれたメディア」の存在と活躍が不可欠です。いま一度、多くのみなさんと、ジャーナリズム、メディアリテラシー、地域文化の育成などの課題を、この「埼玉・市民ジャーナリズム講座」の場を通して共に考え、情報発信していきたいと考えています。この企画は地元・地方紙「埼玉新聞」の紙面協力のもと 2014 年から取り組んでいます。　**主催：埼玉・市民ジャーナリズム講座実行委員会**（代表：門奈直樹・立教大学名誉教授、構成団体：埼玉新聞サポーターズクラブ／日本機関紙協会埼玉県本部／NPO 法人埼玉情報センター／さきたま新聞　／NPO くまがや　有志）　**協力**：SAITAMA 共同かわら版